

# 体 育

## 1 教育課程の編成

### (1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

スポーツを通じた専門教育の学習を希望する生徒が、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身を育成するとともに、生涯を通してスポーツと多様に関わり、スポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成を目指す観点から、次の体育科設定のねらいを踏まえ、教育課程を編成することが大切である。

ア 各科目の学習を行うことによって、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、健やかな心身の育成を図るとともに、生涯を通してスポーツを継続する資質・能力を高め、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うこと。

イ 選択した科目の学習や課題研究等によって、「する、みる、支える、知る」などのスポーツへの多様な関わり方を自ら実践するとともに、我が国におけるスポーツの推進及び発展の担い手を育成すること。

### (2) 各教科・科目における標準単位数や履修における順序性等

#### ア 標準単位数

科 目	標準単位数
スポーツ概論	3～6
スポーツⅠ（採点競技及び測定競技）	2～8
スポーツⅡ（球技）	2～8
スポーツⅢ（武道及び諸外国の対人的競技等）	2～8
スポーツⅣ（ダンス）	2～8
スポーツⅤ（野外の運動）	3～6
スポーツⅥ（体づくり運動）	3～6
スポーツ総合演習	3～6

#### イ 各科目の取扱い

(ア) 「スポーツ概論」、「スポーツⅤ」、「スポーツⅥ」及び「スポーツ総合演習」については、原則として、全ての生徒に履修させる必要があること。

(イ) 「スポーツⅠ」、「スポーツⅡ」、「スポーツⅢ」及び「スポーツⅣ」については、これらの中から生徒の興味や適性等に応じて1科目以上を選択して履修できるようにする必要があること。

### (3) 特色ある教育課程の編成

各科目の指導に当たっては、従前どおり、地域社会との連携を図り、学外の認定資格等の取得と関連付けるなど、より専門的かつ実践的な知識及び技術の習得が図られるようにすることが大切である。

また、効果的な学習成果が得られるよう関係団体や大学などとの連携を図るとともに、

学内での事前指導や事後指導の充実に取り組むことが大切である。

## 2 指導計画の作成と内容の取扱い

### (1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする必要がある。その際、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう留意することが大切である。

イ 障がいのある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う必要がある。

(ア) 障がいのある生徒においても、スポーツの推進及び発展に寄与するために体育科を目指すことが考えられる。その場合においても、生徒の障がいの種類と程度を家庭、専門医等と連絡を密にしながら的確に把握し、生徒の健康・安全の確保に十分留意するとともに、個別の課題設定をするなどして学習上又は生活上の困難を改善・克服するための学習に配慮したり、教材、練習やゲーム及び試合や発表の仕方等を検討し、障がいの有無にかかわらず、参加可能な学習の機会を設けたりするなどの生徒の実態に応じたきめ細やかな指導に配慮することが大切である。

(イ) 実技を伴うことから、全ての生徒に対する健康・安全の確保に細心の配慮が必要である。そのため、生徒の障がいによる困難さに応じて、複数教員による指導や個別指導を行うなどの配慮をすることが大切である。また、個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法については、学校や地域の実態に応じて適切に設定することが大切である。その際、体育科の目標や内容を踏まえ、指導内容の変更や活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、生徒の学習負担や心理面にも配慮する必要がある。

### (2) 単元の指導計画作成上の留意点

スポーツ総合演習を例に、単元の指導計画作成上の留意点を示す。

【単元名】 スポーツ総合演習						
1 単元の目標 スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。						
2 単元の評価規準						
知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
スポーツ概論」から「スポーツVI」までの科目の学習を総合的に活用している。	スポーツを推進及び発展していく上での課題を発見し、文化的、社会的、経済的側面など多角的な視点から、自他や社会の課題の解決に向けて思考し判断している。			スポーツに関する課題研究に主体的に取り組もうとしている。		
<b>学校教育目標(卒業までに身に付けさせる資質・能力)との関係</b>						
【各学校における教育課程は、当該学校の教育目標の実現を目指して設定する】(学習指導要領解説:総則編P51)ことから、学校教育目標と教科指導との関連が明確になるよう表記を工夫すること。						<b>自己肯定力</b>
3 指導と評価の計画						
	各次の主題	問い・学習活動	知	思	態	評価の場面・留意事項
【テーマと課題研究の方法】関心のあるスポーツの過去の事故事例やスポーツ傷害の事例等から、その因果関係に着目し、健康・安全を確保するためのマニュアルや手順等を作成し、その運用を通して、具体的効果の結果をまとめる。						
単元の導入 (1時間)	【情報の収集】	・ICT等で過去のスポーツの事故を調べる。			○	【態】学習ノート
	必要に応じてICT等の情報及び情報技術を適切に活用し、学習の効果を高めるよう配慮すること。					
単元で、主体的、合理的、計画的な解決に向けた自らの考えを他者に筋道を立て、論理的に伝える場面の設定が大切である。						